

# 農作物生育・技術情報4号

## 1. 水稻生育状況(7月1日現在)

●生育状況調査(中苗ななつぼし・5/25前後移植ほ場)

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	遅速 日数	備考 ※( )は平年比
R3年	47.3	8.8	490	早3	幼形期 7/3(平年7/6)
平年値	40.2	8.3	421		
差	+7.1	+0.5	+69		

- (1) 調査ほ場の生育は草丈、莖数、葉数とも平年を上回っていますが、移植が遅かった所や水深が深かった所等では、莖数が平年より少なくなっています。
- (2) 多くのほ場で幼穂形成期に達しており、まもなく冷害危険期を迎えます。

ア 冷害危険期間(幼穂形成期10日後から7~10日間)は水深を徐々に上げ、最大20cm程度(できるだけ)の深水管理を行う(必ず止め水に!)

### (3) 病害虫の発生状況

ア 葉いもち：7月5日現在、初発は確認されていませんが、過去に発生したほ場を中心に、ほ場の観察を行い、発生の有無を確認してください。

イ アカヒゲミドリカスミカメ(カメムシ)：本年は発生量は平年並みと予想されています。令和元年には着色粒の発生が見られました。草刈り等計画的に進めてください。

●幼形期の目安

ゆめぴりか	成苗：6/28	中苗：6/30
ななつぼし	成苗：7/1	中苗：7/3

★冷害危険期の目安

ゆめぴりか	成苗：7/8 ~7/15	中苗：7/10 ~7/18
ななつぼし	成苗：7/11 ~7/19	中苗：7/13 ~7/21

## 2. 畑作

### (1) ばれいしょ

#### ○疫病防除

降雨が続いているので多発しやすい条件にあります。7~10日間隔で定期的に防除を実施しましょう。また、菌核病、夏疫病等を含めた同時防除を検討しましょう。

#### ○軟腐病防除

高温多湿条件が続くと多発します。特に窒素過多や倒伏したほ場で発生しやすくなるので、初発を確認したら速やかに防除しましょう。

### (2) 秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定による収穫予測が可能になります。測定を希望する方はJA及び普及センターまでお問い合わせください。

### (3) 豆類

断根しないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合や初期生育が劣っている場合には追肥をしましょう。

#### <追肥の目安と時期、施肥量>

- ・小豆(生育量が確保できない場合) 本葉3葉期~開花始め 窒素5kg/10a
- ・大豆(根粒菌の着生が劣る場合) 開花始め 窒素5kg/10a

### 3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：4～6段目収穫中 4月定植：2～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：3～4段目開花 ・灰色かび病、半身萎凋病、萎凋病、アザミマ類、網果、尻腐れ果、がく枯等が発生している。	・摘葉は草勢に応じて行い、過度な摘葉は控えましょう。 ・ベツト中央や茎葉で混み合っている部分、下葉を中心に摘葉を行う。 ・尻腐れ果の発生予防に石灰資材の葉面散布を行う。
ハウス軟白ねぎ	・3月定植収穫中。 ・ハダカアザミマ類、アザミマ類、葉先枯れが発生している。	・ハウス周辺の除草を行う。 ・高温が続くとアザミマ類が多発するので防除に努める。
アスパラガス (ハウス立茎)	・萌芽～夏芽収穫始め。 ・斑点病とジュウシツビカガムシが一部ほ場で見られる。	・早期防除に努める。 ・ハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・ハウス周辺の除草を行う。
かぼちゃ	・一番果着果期 ・アブラムシ類が発生している。	・8節以前に着果した果実は摘果する。 ・畝間に追肥する。

\* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されています。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

### 4. 牧草生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業	適要
	項目	R3年	平年	遅速日数	収穫期(平年値)	
牧草(1番)	草丈	95.7cm	90.1cm	早2	6/22(6/24)	好天が続いているため、収穫が進んでいる
デントコーン	草丈 葉数	86.3cm 9.0葉	75.0cm 8.9葉	早2		生育は平年並みである

●牧草の生育を適正にし、牧草割合を高めるため追肥を行いましょう。

- 1) 追肥により、収量が高まります。
- 2) 追肥により、分けつが発生し牧草割合が無追肥より高まります。(雑草の侵入防止)

●防疫対策を行いましょう

夏期は気温と湿度の上昇によって病原菌が繁殖し、乳房炎を始め様々な疾病が発生しやすくなります。作業者の予防意識を高め、防疫対策を徹底しましよう。

(1) 農場の衛生管理

ア 農場出入口には車両用に消石灰(目安：0.5～1kg)/㎡を散布し、消毒帯(2m以上、タイヤ一周分)を作らましよう。畜舎等の出入口には、踏み込み消毒槽を設置しましよう。

イ 農場に立ち入った人の記録を残しましよう。

ウ 牛舎出入口にネットを設置し、野生鳥獣の侵入を防止しましよう。

(2) 生乳生産の衛生管理

ア 換気を行い、敷料の交換頻度を高め、牛体(乳房・乳頭)を清潔に保ちましよう。

イ 生菌数を増やさないう、ミルクインレット(パイプライン入り口)を清潔に保ち、ミルクシステムやバルククーラーの洗浄・殺菌、バルクの冷却システムに問題がないかチェックしましよう。

ウ 搾乳機器・バルククーラーは日常的・定期的に点検し、部品交換を行い、異常が確認された場合は速やかに修理しましよう。

エ 体細胞が高い場合は原因牛をPLテスター等で特定し、早期治療しましよう。